

平成29年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	100	学校名	沼津市立沼津高校	記載者	高木ゆかり
------	-----	-----	----------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
A	教育活動全体を通じて、バランスの取れた心身の発達を促すため、特色ある個性ある施策を企画し実行する。	○学力向上を推進する教学体制の充実をめざして体制基盤を整備し、進路実現を図る自立的な態度を育むための方策を立てる。	B	B	生徒の主体的、対話的な深い学びに向け、組織的な授業改善への取組みが継続的に行われている。
		○各進路コースに応じた教科カリキュラムの研究を深化し、多様な進路希望に対する指導体制を強化する。	B	B	進学希望に対応したカリキュラム検討変更がなされ、また、補習や指導体制が安定的に運営されている。
		○公的な学力調査・検査や民間の外部テストを積極的に活用するとともに、結果について分析し、中高間で情報及び問題点・課題を共有し授業改善に反映させる	A	A	英語の4技能修得や新テストへの対応として、新テスト1期生の中等部3年生も含めたGTEC導入がなされた。
		○全人的な発達を基本にしながら学校行事を精選するとともに、個性の伸長を図る視点から特別教育活動を企画・実行する。	A	A	文化祭、ボランティア、進路行事やマラソン大会など、目標の全人的な発達を踏まえた行事が運営されている。
		○生徒の自主性、自立心の向上をめざし、文武のバランスに配慮しながら部活動の活性化を図る。	B	B	保護者として部活動の熱心な指導はありがたく感じている。8時完全下校のルールも遵守されている。
		○PTA、後援会、同窓会等の学校外郭団体や地域との連携強化を進め、教育活動への理解・協力・支援体制の発展を図る。	B	B	PTAの支援により、高校生への各種補習に加え、中等部の土曜学習により、発展的な学習がなされている。後援会の助成により部活動の活性化が図られている。

様式第5号

B	中高一貫教育を効果的に展開するため、実効性ある2-2-2ステージ制を構築する。	○各ステージの目標を明確にし、系統性、継続性を重視した達成施策を企画・実行する。そのための研修、教科連合の実質効果的推進を図る。	A	A	特に英語において中等部3年間から高校1年生への継続的な学習・指導の成果が、外部模試にも現れている。GTECHが中等部にも導入され継続指導が期待できる。
		○中高各部の自立性を図りながら、教職員の交流を深め相互理解を推進し、各部署・各業務の連合を強化する。とりわけ授業担当について、中高間の相互乗り入れを拡大する。	B	B	中高の教員の授業担当の乗り入れや、TT授業が安定的に運営されている。6年間教育の利点を活かす工夫が一層必要。
		○第1ステージにおける学力の基礎定着について方策を講ずると共に、第2ステージにおける第3学年の学力及び学習意欲向上策について、土曜学習及び高校入試事前指導の充実を図る。	A	A	中等部の土曜学習が計画的に行われ、GTECの事前学習など、発展的な学習に活用されている。
		○第2ステージ第1学年における一貫生と一般生の融和に配慮しながら、第3ステージにおける活動基盤を整備する。	A	A	教員の中高交流により、第2ステージ第1学年の学年運営が効果的になされている。
		○各部活動について、中高各部がその成長段階に応じ責任ある運営を基本として連合を強化する	B	B	中学3年生の中体連以降の高校部活参加制度が安定して来たことが窺える。
C	命の教育」を徹底しながら学校生活の安全・安心を確保するとともに、自律的・主体的な生活態度を養い、自己管理能力を高める。	○ルールを遵守しマナーを尊重する生活指導を重視し、全校的に取り組む。	A	A	生徒はルールを理解・遵守し、落ち着いた学校生活を送っている様子が見られる
		○いじめに対する問題意識を深め、自他を尊重する態度を養うため、特別活動の企画・運用を推進する。	A	A	いじめ調査や心情調査を活用した指導成果がみられている。
		○ネット社会に関する安全意識を啓発し、情報管理能力を向上させる。	A	A	SNS被害の予防研修が実施され、スマートフォンの使用ルールが生徒に定着している。
		○交通安全教育を一層推進し、事故0を達成する。	A	A	自転車交通違反者への指導が丁寧に行われている。
		○全校挙げて防災意識と避難行動力の向上を図る。	B	B	生徒への予告無しの防災訓練など工夫されているが、さらに実践を想定した訓練の工夫も必要

様式第5号

D	特色あるキャリア教育を組織的・系統的に再構築する。	○現行の進路行事や体験的活動を再評価し、6年一貫の系統的視点からキャリア教育を再構築する。	B	A	中高一貫校ならではの視点での中等部生の大学見学や、大学模擬授業、進路講演会など工夫されている。
		○インターンシップやその他の活動を通じて、発達段階に応じた職業観や勤労観を育む。	B	B	中等部2年、高校1年にて職業インタビューなど、進路指導として計画的に実施されている。
		○国際交流の機会を積極的に設定し、国際社会に対応できるコミュニケーション能力を高め、異文化理解力を持つグローバル人材を育成する。	B	B	台湾の高校生との交流を実施するなど、生徒の関心を高める機会を設けている。
		○ボランティア活動を実践し、社会貢献を果たすと共に奉仕的精神を育む	B	B	白桃ボランティアとして生徒会主催で全員参加型で実施されている。
E	教職員研修の充実を進め、教育的実践力・指導力を高め、さらには学校改善に改革的意識を持って学校経営に参画する。	○中高教科連合によるアクティブラーニング型授業の研究・研修を進め本校独自の授業形式の基盤を作るとともに、主として市内小中学校教員に向けて発表・公開する。	A	A	A Lユニットを中心とした公開授業が組織的に行われている
		○中高教科連合による授業研究の成果を、主として市内中学校教員に向けて発表・公開する。	B	B	中高連合での教科会議や授業力向上の研究が取り組まれている。
		○とりわけICTの活用を意図した授業づくり研究をつうじて、授業力を向上させる。	B	B	先駆的にプロジェクターやパソコンを用いた魅力的な授業が行われているが、タブレットの導入活用について検討が必要
		○いじめ、体罰など生徒の人権問題に対する意識啓発を進め、臨場即時に対処する行動力を高める。教職員一人ひとりの危機管理能力を向上させる。	A	A	SNS によるいじめの生徒向けの研修が図られている。
		○インクルーシブ教育を視野に入れながら、発達障害を抱える生徒の学校生活と進路実現についてその対応力を強化する。	A	A	インクルーシブについて高い意識と実践への取組みが図られている。
		○ユニットを活用し、業務質量の平準化を図り多忙化防止・多忙感の軽減を図る。	C	B	超過勤務時間の状況から、業務の精選が必要と思われる。また、部活動の活性化を損なわない効率的な指導が必要。
		○学校関係者評価などの外部評価をもとに教育・経営課題を理解し、協働的な取り組みを活性化させ教育・経営課題を克服する。	B	A	学校評価アンケートを活用し課題に対して、即時的に改善を図り課題改善がなされている。